

2021 夏野菜苗作り計画と記録

品目	苗総数	実施日	育苗	種まき	ポット上げと植えつけ予定日
ミニトマト	120	3月初旬	60日	種一晚吸水・育苗箱にすじまき・25℃～保温	本葉1枚で鉢上げ・20℃で育苗 5/初旬
なす	30	3月初旬	60日	育苗箱にすじまき・25℃で育苗	本葉1枚でポット上げ
ピーマン	20	なす同様	同上	同上	同上
ししとう	20	同上			
唐辛子	30	同上			
きゅうり	30	4月初旬	30日	ポリ鉢に3粒づつ・夜間15℃以下にしない	本葉1枚で1本立ち
紫蘇	30	4月中旬	30日	育苗箱にすじまき・好光発芽性	本葉がでたらポット上げ
ゴーヤー	30	4月初旬	30日	種を一晩吸水・ポリ鉢に3粒づつ・保温	本葉2枚で1本立ち
枝豆	200	4月中旬	30日	育苗箱に3cmおきにまく・直まきも可	本葉3、4枚で植えつけ
ズッキーニ	90	4月初旬	40日	ポリ鉢に1粒づつ	本葉4、5枚で植えつけ
オクラ	60	4月中旬	20日	ポリ鉢に4粒づつ・直まきも可	本葉2、3枚で植えつけ
すいか	30	3月中旬	60日	育苗箱に種まき・保温管理	本葉1.5枚でポット上げ
長ねぎ	300	2月初め	90日	セルトレイに種まき・保温管理	5月初旬に植えつけ

作物の品種を増やす件、昨年ミニトマト アイコ、イエローアイコ、フルティカ等、栽培してきたが、収穫時にはよくわからなくなっていた。

これまでの反省から：気温の上昇に注意しながら、保温し過ぎ、水のやりすぎによる徒長を避ける。

発芽するまでは乾燥、温度に注意するが、発芽後の過保護がよくない。水やりは夕方を避ける。

植えつけ適期を外さない。植えつけ時のダコニールによる殺菌は、間引き菜を食さないならば実施する。

苗の総数は若干多めに作っている。植えつけ出来ない苗を見込んでいる。

次年度は種採りにチャレンジしたいが、品種が多いと管理が難しい。ポット上げの時点で何だったのかわからなくなっていた。

育苗の記録

- 3/2アタリヤ スイートミニトマト甘っ娘 200粒を20℃で一昼夜吸水し、育苗トレイに5mm間隔に種まきパーミキュライトで覆土
3日で発芽 3/4残りの種を同様に種まきした。3/5 アイコ2種を種まきした。保温器を設置した育苗箱で常時通電していたら、日中40℃以上になり、タイマーを入れ温度を管理、日中25～30℃、夜間15～20℃になるように設定した。
3/19、23 本葉1枚出たのでまっすぐ伸びて葉の形がよく、茎が太い苗をポット上げし、18～23℃で管理している。3/28現在苗の総数は288ポット、いかにも多い。約一ヶ月で何割かはダメになるとしても40%にはならないだろう。場所も取ることで、さてどうしよう。
本葉が8、9枚出てはじめての花が付き始めたら定植適期。5月初旬を予定している。
- 3/8自家採取の鷹の爪100、ピーマン200、しし唐42、万願寺唐辛子51、なす千両二号54粒の種をまいた。
鷹の爪の発芽が非常に悪いので、改めて種まきを予定。3/27実施 併せてなすも徒長気味につき新たに種まきした。
- 3/9小玉スイカ紅こだまサカタのタネ36粒を吸水し発芽を促がす。接木の苗に仕上げることを思いつき、自家採種したかぼちゃも吸水。
Youtubeで接木のやり方、かぼちゃは種まき20日後、すいかは11日後で今回のスイカの種は早かった。これはそのまま種まきし、1週間後別の品種を種まきする。接木苗は作るのはいさかいがないようだが、その後の管理は手間がかかりそうだ。遮光、保温など。
小玉すいかはいまだ発芽せず。接木苗を購入予定。3/26 28年度産かぼちゃと間違えていた。給水した際に育苗トレイを逆に戻したようだ。従ってかぼちゃ発芽ゼロ、紅こだま23/36 発芽率64%。3/26台木用にミニ冬瓜ちゅらを種まきした。小玉すいか追加購入済18粒あり。
- 昨年に余ったゴールドラッシュの種まきを始めた。3/26 9号ポットに3粒づつ32×2台=64株分、3/28 9号ポットがなくなり7号ポットで60株分 うまく発芽すれば第一回分を確保できる。植えつけ後トンネル掛けなどが必要だが、収穫予定7月初旬を見込む。



3/30 発芽を確認した。4/3 極めて順調に育っている。

4/15 1畝120株を植えつけ、さらに1畝120株を3粒づつ種まきしてトンネルをかけた。

4/22 の育苗の様子です。



ピーマン



なす 千両2号



ミニトマト 甘っ娘



枝豆 中早生茶豆 夏の声



すいか 甘っ娘



ズッキーニ エメラルド 4/16 種まき 4/22 発芽